

や食中毒の発症には、まず発病量の問題があり日常生活で自然の形で手についた程度であれば、そんなに簡単に発病に至るものではない。野辺地教授は「目の前でハエのとまったものを食べても大丈夫」といわれたことがあるが発病量や時間的経過、感受性など伝染病発症のメカニズムを教える科学的アプローチが必要であり、食べる側にとっては食前の手洗いはそれ程問題ではないが、調理する側は、たとえわずかの菌量でも手についた病原菌が食物の中で増殖し時間的経過とともに発病量以上になるので、いくら洗っても洗い過ぎることではないことも教えるべきである。手洗いについては伝染病だけでなく清潔の習慣という見地から

もみなければならない。幼少時期からの教育的アプローチでしっかり手洗いの習慣を身につけた子供は、やがて手を洗わなければ気持ちが悪いということになる。こうなれば食前にも、どんなに急いでいても必ず手を洗う。それは病気をさけるためだけでなく清潔の習慣としての手洗いであるからである。同様のことが「ハミガキ」についてもいえる。必ずしもムシ菌を予防するだけのものではなく歯をみがかないと気持ちが悪いという習慣をつけさせることが大切である。

「未だ病まざるの病を医す」のは、なにも医師だけのものではなく、自分自身の問題であり、自分の健康は自分で守ることが大切である。

平成2年度「全学向け体育実技」

開講のお知らせ

今年度「全学向け体育実技」は、下記の種目を予定しておりますので、あらかじめお知らせします。

記

1. 「バトミントン」コース
2. 「硬式テニス」コース
3. 「ゴルフ」コース
4. 「水泳」コース

なお、各コースの詳細につきましては、後日各部局を通して御案内いたしますので、その時にはお早めにお申込みください。

(体育科学部)

